[特集] ものづくりにかける

仕事図鑑 ACE. #01

デリシャスファーム株式会社（大崎市）

栽培担当

伊東 輝実さん（23歳）

Terumi Ito

“デリシャストマト”は まさにデリシャス 加工品にも支持集まる

デリシャスファーム株式会社は、デリシャストマト生産の第一人者。
デリシャストマトは「まるでフルーツのよう」と評され、
甘みと酸味のバランスが良く、旨味が強いのが特長だ。
デリシャスファームではこのデリシャストマトをより多くの人に
楽しんでもらおうと加工品生産にも注力。
トマトジュースをはじめギフト商品としても広く喜ばれている。

自然に関わる仕事をしたいと就活を進める中で農業に興味を持った伊東さん

おいしいトマトを できるだけ安定的に 多くの人に届けたい

直接、今野社長（右）から指導を受ける伊東さん。
「できる限り、自分の知見や技術を受け継いでおげたい！」と今野社長は考えている

product

デリシャストマト中心に ラインナップを幅広く提供

デリシャストマトの収穫期はおおよそ2月から7月まで。
その他、りんかなど夏・秋に穫れる品種も用意し、
年間を通じトマトを供給する。さらにその他野菜類も栽培する。

ジュースなど加工品開発も積極的に行う

何をしたいかを考えた 自分の未来を 農業に見た

大型鉄骨ハウスの中で、額の汗を拭いながら、真剣にトマトの脇芽を摘んでいく伊東輝実さん。「脇芽取りもおいしいトマトを作るためにはとても大事な作業です」。そう話し、笑顔を見せる。伊東さんがデリシャスファーム株式会社に入社したのは2021年4月のこと。同年3月、東北芸術工科大学を卒業し、デリシャスファームの社員となった。大学時代は映像制作を学んでいたそうで、卒業制作では「20分程度の映画を撮りました。内容はラブストーリーです（笑）」。農業と映像制作、なかなか結び付かないが、その点を聞いてみると「映像の仕事ももちろん考えたのですが、何か新しいことをしたいなという気持ちもあって。自分の中で何がしたいか改めて整理してみたところ、出た結論が自然に関わることをやってみよう、でした。自然に関わる仕事を探してみて、最終的に農業に興味を持ったんです」との返答。伊東さんは新しいことに挑戦するのが好きなようだ。

「農業関係に就職したい人を募集している求人サイトでデリシャスファームのことを知りました。法人組織で農業をやっているところという条件で見つかったのがデリシャスファームでした。調べていくうちにデリシャストマトというすごくおいしいトマトを作っているということで、心引かれました。サイトから応募し、6月だったと思いますが、1日体験に参加し、その際には今野文隆社長ともいろいろ話す機会もありました。正直作業は大変でしたが、そのとき素直に、ここで働きたいなと思いました」

失敗もありますが作物と触れ合って毎日楽しいです

楽しい食事を提供する一助になりたい

作物をより良く知るためには経験が欠かせない

「相手は野菜という"生き物"だけに、細やかな気配りが必要」。伊東さんはそう肝に銘じる。

伊東さんにとって一つ大きな転換点となったのは高校を辞めたのち、何をするかとことん突き詰めた経験だ。「辞めたはいいものの、何をしたいのかがはっきりしない。それでも考え、そして行動するうちに徐々にクリアになり、高校もやっぱり行かなきゃいけないよなと、転校という形で2年次から通信制の高校に行きました。さまざまなことにトライして、音楽を作りたいと作曲に取り組むようになったのもこの頃です」。伊東さんは自身のこの経験から、行動や体験が新たな道を切り開くきっかけになると考えるようになった。「やってみれば何かしら自分の中に判断基準ができるものなんですよね」。伊東さんがまた快活に笑った。

伊東さんの目標は今野社長。日々、ともに仕事をしながら受ける一つ一つのアドバイスが伊東さんには宝物だ

何事も試すことで先が見えてくる
体験に勝るものはない
行動が自分を助ける

喜ばれるのはやっぱりうれしい
おいしさを提供し続ける
デリシャスファームのブランドを高めたい

デリシャスファームに入社して約1年半、この間の経験は「何物にも代えがたい貴重なものです」と伊東さんは話す。この間で印象に残っていることとして、「恩師たちにおいしいと言ってもらえた」ことを挙げた。「昨夏、自分が初めて生産に関わったトマトを、お世話になった大学の先生たちに届けて、食べてもらいました。そうしたら、『すごくおいしい』と喜んでもらえて。その言葉を聞いて自分も本当にうれしかったです。農業をやって良かったなと実感した瞬間でもありました」

農業に対する愛着心はより高まっているが、当然まだ農業者として熟練の域に達しているわけではない。「作物がどんな状態ならこうすればいいというのが、今野社長なら一目で分かります。そうしたレベルまで自分も高めたい。デリシャストマトのブランド価値向上に自分も一役買いたいです」

∧デリシャストマトの収穫は7月で終了。
現在は秋トマトの世話が伊東さんの主な仕事だ

∨「自分に農業は向いている」と伊東さん。
今野社長との会話も実に楽しそうだ

教えてください! ACEの仕事ぶり

華奢に見えるけど
柔道で鍛えた心身でしっかり
トマトと向き合ってくれています

代表取締役社長
今野 文隆さん *Fumitaka Konno*

伊東君と初めて会ったのは彼が大学4年生のとき。とある農業求人サイトから問い合わせがあり、初夏の頃、どんな作業をするのかの1日体験に来てくれました。大学では映像制作を学んでいると言うし、体つきも細く見えて、これで農業が務まるかなと思いましたが、柔道で鍛えた心と体はやっぱり強いんですね。1日体験をしっかりこなし、これは芯のある若者だと思いました。大学卒業後、入社してくれることになったときはいい人材が来てくれたと頼もしさを覚えました。仕事ぶりはいたって真面目、ひたむきに一生懸命物事に取り組んでくれています。このままま っすぐ育っていってほしいですね。

味の良さが喜ばれた
生産規模を順調に拡大、デリシャストマトを安定生産

デリシャスファーム株式会社は、宮城県におけるデリシャストマト生産の第一人者。デリシャストマトは「まるでフルーツのよう」と評され、甘みと酸味のバランスが良く、旨味が強い。同社では順調にデリシャストマトの作付面積を拡大。戦略的に直売所での販売を重視し、その割合は他の販売ルートより圧倒的に高い。さらにデリシャストマトをより多くの人に楽しんでもらおうと加工品生産にも注力。トマトジュースやドレッシングがラインナップされ、また、2017年にはお取り寄せサイト「47CLUB」主催、こんなのあるんだ! 大賞東北ブロック賞にトマトジュースが輝くなど評価も高い。

基本理念には、常に消費者の求める商品作りを目指すなど4つを挙げる。自社で栽培した作物を使うカフェ・レストランなど、様々な取り組みで事業拡大を図っている。

上：デリシャスファームは約7000坪という広大な土地でデリシャストマトを中心に野菜を栽培している
下：加工品もデリシャストマトを広く知らしめる役割を担っている

デリシャスファーム株式会社

□所在地／大崎市鹿島台木間塚古館1　□代表取締役社長／今野 文隆　□資本金／5,000万円　□設立／1998年9月　□従業員数／30人（2022年7月現在）
□事業内容／デリシャストマトを中心とした各種トマトの生産、加工品製造、カフェ・レストランの運営。その他野菜の生産
□基本理念／土と作物を愛する心を大切にする 常に消費者の求める商品作りを目指す 笑顔と活力に満ちた職場作りを目指す 若者にロマンを与える農業を創る
TEL 0229-56-3578　http://www.delicious-farm.com/

[特集] ものづくりにかける

仕事図鑑 ACE. #02

株式会社ニッケ機械製作所東北事業所（登米市）
FA事業グループ第一統括部
東北事業所電機技術課
首藤 直 さん（21歳）
Nao Shuto

人と地球に視点を置き 情熱と誇りを持って チャレンジする

株式会社ニッケ機械製作所は人と地球に“やさしく、あったかい”企業グループを自負する。車載電装品・部品・センサー、二次電池、半導体の製造・検査装置を中心とした、FA装置製作事業を主軸に展開。新規大型製造ラインから既存装置の改造工事に至るまで、設備仕様の立案から設計・製作・現地立ち上げ・アフターサービスなどを一貫して行う。取引先の特注仕様にも細やかに対応する。

首藤さんは自身の目標に、大きなFA機器を担当したらその試運転まで1人で任される技術者になることを掲げる

お客様にも会社にも喜ばれるよう力を尽くす

発注者、そして会社からの信頼をしっかりと受け止め、真摯に、実直に業務と向き合う

product

求められるニーズを考え その実現に挑戦し続ける

取引先のオーダーに適合した製品を単に提供するのではなく、製品の品質マネジメントにも大いに力を注いでいる

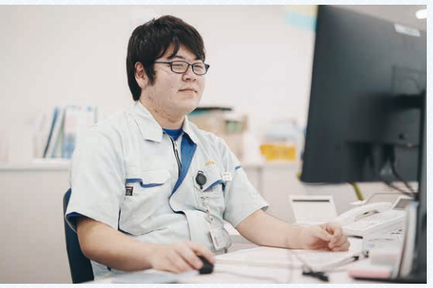
お客様の満足を何より優先

2年間の研修を修了 4月より登米で働き始めた

首藤直さんはいつも笑みを絶やさない。柔和な表情から朗らかな人柄が伝わり、口調も穏やかで、話す相手に安心感をもたらす。首藤さんがニッケ機械製作所に入社したのは、2020年4月のこと。今年3年目となった21歳の若者だ。地元はニッケ機械製作所東北事業所がある登米市なのだが、この東北事業所で働き始めたのはこの春から。それまでは兵庫県加古川市の本社で2年間研修を受けてきた。

「私はFA事業グループ第一統括部東北事業所電機技術課に配属されているわけですが、仕事の主な内容は、FA機器のハード図面を引くことと、それを動かすためのソフト設計になります。研修1年目はハード系の電気配線を教えてもらって、それで東北事業所へ仕事場を移すこともできたのですが、ソフト設計も覚えたほうが早く仕事になじめる、と会社側から勧められ、2年目はいわゆるプログラミングを学びました。そうしてこの春、地元に帰ってきたところです。当然、即戦力として見られていると思いますが、まだまだ戸惑うことも多くて、気の抜けない日々を送っています」と笑みを浮かべながら話す。

「ソフト設計にまだ自信がありません。今の課題はソフト設計の精度を高めることになります」。そして、首藤さんは自身を〝鍛える〟ために意識していることがある。上司にすぐ教えを請わないことだ。「分からないからといってすぐ聞いてしまうと、その問題は解決できますが、自分の身になりません。苦労しても自分でいろいろ調べて、実際に解決に導くことが自分のためにもなると思っています」



どんな作業でも正面から取り組む

得意、不得意はあるも任された仕事は責任を果たす
2年間の本社研修を経て地元に帰ってきた首藤さん。任された役割をしっかり務めようと懸命だ

発注ミスがないか部品の検品はいつも真剣です

中学ではパソコン部部長
パソコンスキルを生かしたかった登米総合産業高校情報技術科へ進学

首藤さんは中学時代、パソコン部に所属していた。「パソコン、プログラミングに興味があり、中学はパソコン部に入りました。プログラミングもやるんだろうなと思っていたら、あまりやらない部で（笑）。タイピングなどの基礎や、ビジネスソフトの使い方などを学びました。三年次は部長も務めたんですよ」。そうした背景もあって、登米総合産業高等学校情報技術科に進んだ。情報関係の勉強に励む一方、もともとスポーツも好きな首藤さん。アーチェリーに打ち込んだ。「入学当初にあった部活紹介で先輩が矢をうつ姿が格好良く映り、それで入部を決めました。いい成績を挙げられたわけではないですが、アーチェリー部での活動は今でも楽しい思い出として残っています」。高校生活は充実したもので、あっという間に進路を決める時期になった。「進学したい気持ちもありましたが自立の道を選びました。少しでも自分がやってきたことが生かせる仕事をしたいと思って就職活動を進めました」

求人票を見ても分からない！
自分をよく知る先生に相談し ニッケ機械製作所と出合った

就職することを決めると求人票をまずチェックしてみた。しかし、どこが自分に合っているのかよく分からない。首藤さんは情報技術科の科長の先生に相談した。「私をよく知る科長は、ニッケ機械製作所がいいんじゃないかと勧めてくれました。ここなら自分のやってきたことを生かせると思い、就職試験を受けました」。そうして、首藤さんはニッケ機械製作所と出合ったのだ。将来の目標を「大型ＦＡ機器のハード、ソフトとも設計を任され、さらに試運転まで1人でできるようになりたいです。実現のためこつこつ頑張ります」と話す首藤さんの表情は、輝いていた。

常に笑顔を欠かさない首藤さん。朗らかな性格は社内コミュニケーションを円滑にさせている

＜課題解決のために、これまで蓄積されてきた資料に当たることも少なくない

教えてください！ ACEの仕事ぶり

問題点にどう対処していくか より良い方策はないか きちんと考えて仕事をしてくれます

上司に聞いちゃいました！

東北事業所 電機技術課課長
黒木 隆史さん *Takafumi Kuroki*

首藤君が東北事業所に配属されたのは今年4月でした。私と出会ったのはその時が初めてでした。学生の頃から情報技術を学んでいた強みでしょうか、ハード設計について2年間できちんと体系立てて理解していたのに驚きました。今では図面を描くだけでなく問題点に対してどのように対処していくか、より良い方策はないかきちんと考えて仕事をしてくれていますので、安心して任せています。これからはソフト設計・試運転などでどんどん仕事の幅が広がっていきます。それに比例して首藤君に関わる人の数も増えてきます。その輪の中心となっていくつもりで頑張ってください。

明治期創業の日本毛織加古川工場工作部が母体
100年を優に超える長い歴史が厚い信頼を得てきたことを示す

株式会社ニッケ機械製作所は1899年に創設された日本毛織株式会社加古川工場工作部を母体とする。日本毛織加古川工場及び印南工場工作部を統合しニッケ機械製作所（事業部）を設立したのが1970年のこと。73年に再度組織変更を経て、78年に現社名でもあるニッケ機械製作所が立ち上がり、以来、工場の規模を大きくし、事業所の開設を順次進めてきた。登米市に東北事業所を設立したのは2020年のことである。

FA事業、いわゆる生産工程の自動化を図るシステムの構築・提供を主事業としており、大変高い評価を誇る。そのほか、ソーラー発電システムの提供、エネルギー管理から取引先の生産性向上を提案するエネルギー事業、委託生産を主体とした製品事業も行っている。

上：工場は50メートルにわたる装置まで一体的に対応できる。いずれの機器も数メートル単位のユニットごとに製造する
下：東北地方のお客様の近くで製造作業を行うこと、さらには会社設立40周年を機にさらなる発展を目指し、東北事業所は開設された

株式会社ニッケ機械製作所

□所在地／登米市迫町北方字大洞104-18（東北事業所）　□代表取締役社長／永井 一郎　□資本金／5,000万円　□設立／1978年12月
□従業員数／333人（全体、2022年8月現在）
□事業内容／各種メカトロニクス装置の企画、設計および製作、コンピューター・シーケンサーを応用した電気システム設計および製作など
□基本理念／設備の設計・製造技術を駆使し、お客様の声を具体化して提供します
TEL 0220-30-0001　https://www.nikkekikai.com/

[特集] ものづくりにかける 仕事図鑑 #03 ACE.

株式会社スタ・ディア（石巻市）
縫製担当
大和田 愛美さん（23歳）
Manami Owada

大和田さんは『社内は言いたいことを言い合える雰囲気があって、仕事への意識が高く、そして皆さん、フレンドリーです』と話す

高級婦人服の製造を担い 高い品質の製品を提供し続ける

2001年に代表取締役社長の後藤昇さんが、いわば脱サラして立ち上げたのがスタ・ディアである。後藤社長の父がもともと仕立て屋で、後藤社長も同じ道へと東京で修行、地元・石巻市へ戻ってから縫製会社でのサラリーマン生活を経て、高級婦人服を手掛ける同社を設立した。

product

ワンピースやブラウスなど 品質の高さで存在感示す

スタ・ディアは高級婦人服の製造で広く知られる。
女性が多い職場で社員たちが日々技術を高め合う。

高級婦人服を数多く手掛ける品質に大きな自信！

会社の信頼を守りたい 手先の器用さを 高級婦人服製造に生かす

ワンピースの裏地を縫い付ける作業。入社6年目の大和田愛美さんはミシンで糸をスムーズに走らせていく。高い集中力で、動作に迷いはない。気持ちいいほど手早く、縫われていく。

大和田さんは石巻市出身。小さい頃からイラストを描くのが好きで、中学校では美術部に所属し充実した日々を送った。高校は石巻北高等学校総合学科に進んだのだが、本人いわく「高校時代はなかなか自分が何をやりたいのか分からない日々でした」とのこと。それでも「どこか満たされない感覚もありましたが、卒業したら就職しよう。社会人になれば日々は変わる」と考え、就職活動を熱心に行った。求人票を見ていて探し当てたのが株式会社スタ・ディアだった。「見つけたときはこういう縫製の会社が自宅の近くにあったんだ、とうれしくなりました。私は手先が器用な方でミシンも自分なら扱えるのではと思ったんです。会社説明会で話を聞いて、実際に見学にも行って、それでここで働きたいという気持ちになり、就職試験を受けました」

社業発展に貢献したい 班長代理として ノルマ達成に尽力！

最近になって、自身を社会人として成長させるこんな出来事があった。「同じ班の班長さんが不在の時期があり、その間、私がいわば班長代理を務めたのですが、一班員として仕事をしているときとは大違いで本当に大変でした」と振り返る大和田さん。それでも持ち前の責任感の強さで会社の設定するノルマを達成していった。「当初は不安もあったのですが、ノルマをクリアできたのは本当に自信になりましたし、やった！とうれしい気持ちにもなりました」

今、スタ・ディアで働いていて思うのは「自分の好きなことや、得意なことを仕事にできると毎日が楽しい」ということだ。「高校生はやっぱり進路のことで迷うと思うんです。私もそうでしたから。そんなときはぜひ自分は何が好きで、何ができるのかを考えてみるといいと思います。ヒントが得られるはずです」

自らの将来については「裁縫のスキルをもっともっと高めていきたいです。それが会社への一つの恩返しだと思っています」。こつこつと着実に大和田さんは自身の技術を磨いていく。

a b c d

a：縫製の状態を確認する大和田さん　b：社屋内にはさまざまな種類の布が所狭しと置かれている
c：後藤社長（右）は今も現場作業を行う。大和田さんとの打ち合わせも真剣だ
d：ワンピースの裏地付けの作業。迷いなく糸を走らせていく

教えてください！ ACEの仕事ぶり

同僚に聞いちゃいました！

係長 **後藤 啓太さん**
Keita Goto

東京で保育士として働いていたのですが、コロナ禍で2年前の9月、地元へ帰ってきました。2021年になって父が社長を務めるこの会社に入りましたので、大和田さんより年上ながら大和田さんのほうが先輩ということになります。大和田さんは明るく、気さくで、仕事も丁寧。実に頼もしいですね。自分たち若手の力で自社ブランドを立ち上げたいね、などと話すこともあります。スタ・ディアにとって大和田さんはとても大事な存在です。

「年齢が近いこともあって、大和田さんとは話しやすいですね」と笑顔の後藤係長（右）。社業発展のために協力し合う

働きやすい環境づくりに励む

高品質維持のために従業員を何より大事にする

スタ・ディアの社名には愛される、信頼される（ディア）ことの始まり（スタート）という意味が込められているが、もともとは“仕立て屋”を宮城弁で言ったとき“スタ・ディア”と聞こえることから付けられた。創業21年を迎えた企業であり、その技術力の高さは折り紙付き。高級婦人服の製造で高い信頼を勝ち得ている。東日本大震災で社屋が大きな被害を受けたことから、本拠を内陸部に移した。品質維持のためには従業員が大事、と働きやすい環境づくりに力を注いでいる。日々の業務では、社員各々が改善提案や意見を出し合い、高品質な洋服づくりに励む。主な取引先には ANAYI や allureville で知られる株式会社ファーイーストカンパニー、ファッションネット株式会社などが名を連ねる。

社屋内には所狭しとミシンが並び、従業員は黙々と作業に打ち込んでいる

株式会社スタ・ディア
□所在地／石巻市広渕字焼巻391-1　□代表取締役社長／後藤 昇　□資本金／800万円　□創業／2001年6月　□従業員数／27人（2022年7月現在）
□事業内容／ワンピース、スカート、ブラウスなど高級婦人服の縫製加工業
□経営理念／向上心を常に持ち続け、新しいことに積極的に挑戦します
TEL 0225-86-6306　https://stadear.com/

高橋さんは黙々と取り組める今の仕事は自分に合っていると感じている

『特集』ものづくりにかける
仕事図鑑 ACE. #04

株式会社イズミテクノ 宮城工場（大衡村）
製造部マスキンググループ主任
高橋 知歩さん（20歳）
Chiho Takahashi

機能性アルマイト処理技術で社会ニーズに応え続ける

イズミテクノは、アルミニウムの表面処理を主事業とする企業だ。依頼の約90%は半導体関連製品。その他にも、医療機器や音響機器などを手掛ける。高い技術力で業界内外で高い評価を得ている。今後も技術開発により一層力を入れ、表面処理分野において『オンリーワン』『ナンバーワン』企業となる、と方針を掲げ、"The Only One Technology Company"を目指す。

product

高硬度・耐電圧・耐摩耗性などの特長で選ばれる企業へ

機能性アルマイト処理技術は高硬度・耐電圧・耐摩耗性・高耐食・高滑潤性・低パーティクルといった特長を持ち、高い信頼性を誇る。

細やかな技で取引企業の信頼を得る

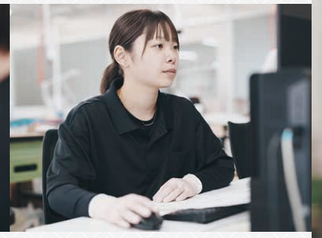
入社1年目の冬から主任に 課員をまとめながら自身の技術力向上に努める

宮城工場が立ち上がったのは2021年春のことで、21年4月入社の高橋さんはいわば一期生。アルミニウム製品の指定された部分に特殊テープを貼り付けるマスキング作業が高橋さんの担当である。「普段は結構うるさくしている方ですが、作業となると私は黙々と1人でやる方が好きです。だから、このマスキングの工程は自分に合っています」と笑顔で話す。マスキングのグループは高木哲也製造グループ課長を含めて6人。高木課長以外は全員女性で、しかも同年代。皆就業時間中は真剣に手を動かし、一方、休憩ともなれば、いろいろな話題に花を咲かせ、笑い声が上がる。この5人のまとめ役が高橋さんだ。入社1年目ながら昨年の12月に主任になった。「管理職を目指しますかというアンケートがあって、迷ったのですがリーダーをやりたい気持ちがあり、目指しますと会社に言いました。それでまずは、ということで主任を仰せつかりました」。実際、仕事ぶりを観察していると、しっかり指示している姿が見られる。頼もしい20歳である。

就職か進学かとことん悩んだ 社会人生活に充実感 目下の目標は係長！

黒川高等学校（大和町）環境技術科を卒業している高橋さん。高校三年生の夏まで自身の進路について悩んでいたという。「進学か、就職か、随分悩みました。最後は早く自立したいという気持ちが勝り、就職を選びました」。担任の先生に相談し、紹介されたのがイズミテクノだった。すぐにいいな、と感じたという。「自分が好きなことやできることが分かっていると、自然と道は開かれていくように思います。そのためにも、外に出ていろんな刺激を受けることが大事かなと。私もアルバイトなどを通して、自分の将来が見えてきた部分があります」。入社後、研修を経てマスキング担当になった。「やっぱり初めての作業は難しく感じます。でも、例えば、数カ月前にやったときは苦戦していた作業が、時間がたつとスムーズにできるようになっているんです。そういうとき『私、上手にできている！』って、すごくうれしくなります」

高橋さんが目下、目標としているのは係長になることだ。「自分の技術も高めながら、もっと頼られるリーダーになりたいです」。そう話すと高橋さんの目の輝きがいっそう増した。



a：自身の技術が上がってきていることを感じるという高橋さん　b：ミスがないかしっかり目視で確認
c：何か不具合があればすぐさま集まってミーティングを行う　d：頼られるリーダーを目指す高橋さん

教えてください！ ACEの仕事ぶり

上司に聞いちゃいました！

製造グループ課長 **高木 哲也**さん
Tetsuya Takagi

明るく、リーダーシップがあり、マスキンググループの中でみんなを引っ張ってくれている存在です。実際、主任という立場で、何か問題があれば率先して解決策を考える姿勢は頼もしく感じます。好奇心旺盛で、何か新しいチャレンジをしなければならないというときもすぐに高橋さんが「私がやります」と手を挙げてくれます。物おじしないですし、負けず嫌いなのも彼女のいいところです。今後の活躍をますます期待します。

マスキンググループは高木課長のほかは皆同年代の女性5人。団結力は強い

人材育成に力点を置く 独自技術で確固たる地位を築く

1966年、長野県岡谷市に設立した有限会社和泉工業を90年に株式会社化したことに伴い、イズミテクノと改称。1983年より、主力事業となるアルマイト処理を開始。以来、独自に開発した表面処理技術である、超硬質・高耐食性アルマイト処理技術が業界内で高く評価されている。現在、機械装置・半導体装置・自動車・医療機器・音響映像機器の各メーカーから認定工場の指定を受けている。社員の平均年齢は 31.6 歳と若い。人材育成には特に力を入れており、各種公的資格取得に向け研修会を積極的に開催するなど、社員の資質向上に余念がない。表面処理分野において『オンリーワン』『ナンバーワン』企業を目指す。宮城工場は2021年より稼働。

株式会社イズミテクノ
□所在地／黒川郡大衡村松の平2-25（宮城工場）□代表取締役社長／林 尚孝　□資本金／3,500万円　□創業／1966年12月
□従業員数／170人（全体、2022年7月現在）□事業内容／半導体関連製品、医療機器や音響機器などのアルミニウム表面処理
□経営理念／技術開発により一層力を入れ、表面処理分野において『オンリーワン』『ナンバーワン』企業となる
TEL 022-725-8128　http://www.izumitechno.co.jp/